

「親孝行したい時には親はなし」

北中には、出産して現在子育て中で休みを取っている女性職員が三名います。そのうちの一人が、本日幼子たちを連れて、北中に顔を出しました。幼い子どもの姿や声は、周りの人々の心を和ませます。校長室と職員室には、しばらくの間、ほんわかした空気が漂いました。



ご本人の了承を得て掲載しています。

幼子たちを連れて来校した職員の顔は、百パーセント母親の顔でした。見知らぬ環境に慣れて動き回る我が子を見つめる目は、とても穏やかで終始笑顔です。母親の優しいまなざしに見守られながら、子どもたちはすくすくと育っています。

私も、自分の子育て時代を思い出しました。うれしいことや楽しいこともたくさんありましたが、それ以上に心配したことやハラハラしたことの方が多かった気がします。

幼い時には、夜に高熱を出したり、園庭のジャングリズムから落ちて何針も縫うけがをしたりと、病気やけががつきものでした。

中学生の時には、友達に初めて手を出してしまったことがショックで、帰宅するなり部屋に閉じこもり、何も話そうとしなかったことがありました。

高校の野球部に入り、なかなか帰ってこない息子を寝ないでずっと待っていたことも数えきれないほどありました。高校まで自転車で通っていた息子が、日付が変わってから、夜光タスキを掛けて裏口から入ってきたときのことは今でもはつきりと覚えています。

いくつになっても子どもは子どもです。だれもが祝福されてこの世に生を受け、親の愛情を一心に受けて育ちます。やきもきしたりイライラしたり、はたまた、感動したりして、親は子どもに寄り添うことで愛情を捧げるのです。

愛情を受けている皆さんは、日々の生活の中でそれを意識することはないでしょう。羽ばたきの練習をしたり、エサのとり方を学んだり、外敵から自分を守る方法を身に付けようとしたりしている皆さんは、自分のことを考えるだけで精一杯。それでよいと思います。

「親孝行したい時には親はなし」

この言葉を知っていますか。自分が年老いて親の気もちがわかるようになり、(親を)大切にしようと思った時には、親はこの世にいない、という意味です。あなたは切なさを感じますか。「早く親孝行しなければ!」という気もちになりますか。

その必要はありません。親としての喜びは、親孝行してもらおうことではなく、「親孝行したい」と思う人間に成長してくれたことにあります。我が子がそういう人間になってくれたことが、一番の親孝行だと私は思います。

(三月十七日記)